第30回

日本工業大学建築設計競技

Nippon Institute of Technology Architectural Design Competition

おとなりも考える家

おおくの場合、家は一軒だけで建っているわけではありません。いくつもの家々が町を形づくります。例えば「自分の家」を基点に考えると私の家の両となりの家、そして道を挟んだ前の三軒の家が一番身近なおとなりです。おとなりは親しみの対象でもあり気遣いの対象でもあります。各々の住宅によって作られる良い関係を結ぶ計画は、次々につながり、町をつくり、人のつながりをつくるのです。

おとなりとのつながりを考えることは、人のつながりだけでなく、光や風そして緑など自然を分かち合う快適な環境をつくることになるのです。緑は夏、涼しい環境をつくり日よけにもなります。日の光を十分に取り入れることは、冬暖かく暖房を少なくします。

「おとなりも考える家」は、人がつながる町づくり、自然エネルギーを活用する町づくりまでを射程に入れた今日的な課題なのです。皆さんのよく考えられた提案をお待ちします。以下に設計の条件を書き記します。

この課題でみなさんに期待したいのは、どのように建物を配置し、おとなりや緑を含めた周辺環境を考えた一軒の住宅をつくるかです。

- 敷地は郊外住宅地とします。自由に想定してください。
- 自動車は一台所有するものとします。
- 意欲のある人は、向こう三軒両となりを含む計6軒まとめた設計に挑戦してくれても構いません。

私が設計した16棟の住宅、「ソーラータウン府中」は参考になるかもしれません。
http://www.noz-bw.com/works/fuchudomino/post_13.html をご覧ください。

［野沢正光］

提出期限 2016年8月26日［金］消印有効

入賞発表 2016年9月上旬［ホームページ上にて発表］

授賞式 2016年11月6日［日］

審査委員

野沢正光［建築家］

吉村英孝［日本工業大学建築学科准教授］

金野千恵［日本工業大学生活環境デザイン学科助教］

日本工業大学
Nippon Institute of Technology
http://www3.nit.ac.jp/kenchiku/

［設計条件］
- 「おとなりも考える家」として工夫した点を具体的に示すこと。
- 設計する住宅の周囲の状況がわかるように表現すること。
- 敷地や建物の規模は自由。他の用途と複合しても構わないが、住むための用途を含むこと。
- どのような人が、どのように使うのか、わかるように表現すること

［提出図面］
- A1版用紙1枚（841mm×594mm縦使い）にレイアウトする。コピー、CADの使用などは自由。
- 配置図：1/100 敷地周辺との関係を表現すること。
  ただし、1階平面図と兼用する場合は1/50とする。
- 各階平面図：1/50 1面以上とする。敷地内の外部空間も設計すること。
- 断面図、立面図：1/50または1/100 それぞれ1面以上とする。
- 透視図または模型写真を少なくとも1点入れること。
- 図面はパネル化不可とする。

［応募要領］
1──応募資格：原則として応募時に高等学校の建築科、またはこれに準ずる学科に在籍しているもの。
2──質疑応答：応募要項にないものは、すべて応募者の判断によるものとし、質疑応答は行わない。
3──提出期限：2016年8月26日。提出はすべて郵送とし、当日の消印のあるものまでを有効とする。
4──提出先：
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 日本工業大学 建築設計競技委員会
5──提出方法：同一人が複数応募する場合および同一学校から複数提出する場合は、
応募案をまとめて郵送する。
6──応募用紙：提出図面には、応募者の所属学校名、氏名等は一切記入してはならない。
応募用紙をコピーの上、氏名等を記入し、応募案ごとに提出図面の裏面に貼る。

［ホームページアドレス／メールアドレス］
HP=http://www3.nit.ac.jp/kenchiku/ ｜ E-mail=kenchiku-compe@nit.ac.jp

［審査］
1──審査委員：
野沢正光［建築家］
吉村英孝［日本工業大学建築学科准教授］
金野千恵［日本工業大学生活環境デザイン学科助教］
2──入賞発表：2016年9月上旬ホームページ上にて発表。
3──作品展示：入賞作品は、本学大学祭の期間中（11月5日−6日）展示する。
4──授賞式：
2016年11月6日、本学において行う。
出席する入賞者および指導教員の交通費は、本学で負担する。
当日は、審査委員のスライド・レクチャーと講評が行われる。

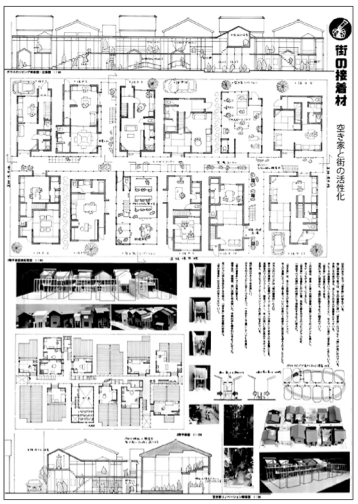
［入賞及び賞］
下記に対して、賞状及び賞品を贈呈する。
一等──1点／賞品：図書券（10万円相当）／副賞：10万円
二等──1点／賞品：図書券（5万円相当）／副賞：5万円
三等──1点／賞品：図書券（3万円相当）／副賞：3万円
佳作──10点前後／賞品：図書券（1万円相当）
- 副賞は、応募者の在籍する学校に指導費・研究費として贈られる。
- 応募者全員に入賞作品集が贈られる。

［図面の返却］
- 応募作品は入賞作品を除き、提出図面のみを発表後2ヶ月以内に返却する。
- 入賞作品は返却しないので、必要に応じてあらかじめコピーをとっておくこと。
  また、梱包用の筒等は返却しない。

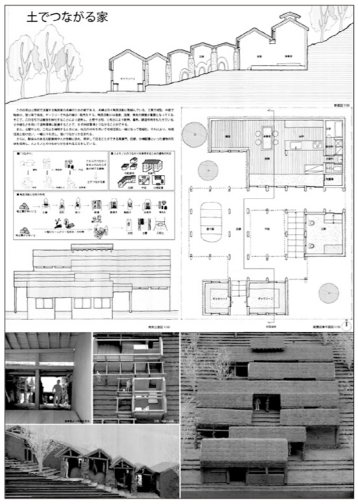
［出版・展示］
- 入賞作品の公開（展示・出版）は、本学の判断で行う。
- 入賞作品は、印刷物として刊行する。

［第29回］受賞作品──課題「つながる家」

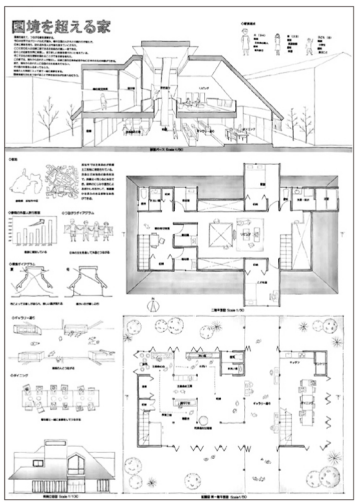
［審査委員］赤松佳珠子［建築家／CAtパートナー／法政大学准教授］｜武田光史［日本工業大学建築学科教授］｜足立真［日本工業大学生活環境デザイン学科教授］



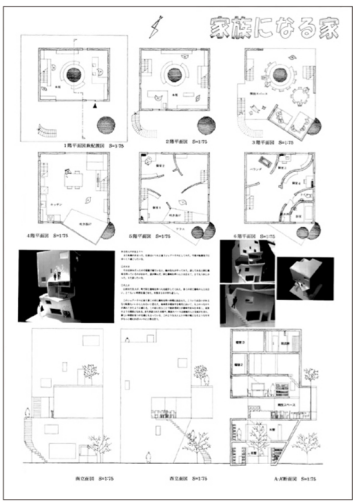
1等｜藤本築／竹谷龍／渡隆盛／三村雄太
［兵庫県立神戸工業高等学校］



2等｜阿川誠
［国立東京工業大学附属科学技術高等学校］



2等｜高山大輝
［静岡県立科学技術高等学校］



3等｜山口謙太
［神戸市立科学技術高等学校］

裏のりしろ
（応募用紙を貼る際、この枠の裏側をのりしろにして下さい）

［第30回］
日本工業大学 建築設計競技 応募用紙
課題「おとなりも考える家」

- 応募案ごとに、この用紙をコピーして使用し、のりやテープ等で図面の裏面に貼る。
- 共同作品の場合には、○欄に代表者名を記入すること。
- 応募用紙には、楷書で記入すること。
- 応募用紙と図面の作品タイトルに食い違いがある場合、図面を優先します

整理番号
（記入する必要なし）

作品タイトル		
高等学校名［正式名］	立	高等学校
学校住所	〒 ― 都道府県 電話番号 ― ―	
指導教員名		
生徒氏名 学科・学年	フリガナ ○	科 年
	フリガナ	科 年
	フリガナ	科 年
	フリガナ	科 年